

通信制高校 多様な学習環境魅力

通信制高校を進学の選択肢に入れる子どもが増えている。自分の関心に特化したコースが用意されていたり、登校日などを柔軟に選べたりするなど、生徒それぞれのニーズに応える多様な学習環境が人気の背景にあるようだ。

(野口季瑛)

関心に特化したコース 登校日、柔軟選択

音声番組の制作について学ぶ起業コースの授業の様子（東京都千代田区の「ワオ高校東京・飯田橋キャンパス」で）



「このポッドキャスト（音声番組）でマーケティングを学んでみましょう」。通信制のワオ高校（岡山）の生徒2人が10月上旬、東京都内飯田橋キャンパスを訪問し、授業の一環で生徒が実際に起業した会社「ブルースプリング」の広報に使う番組制作をしていた。

2人は、大手学習塾を母体とする学校法人が運営す

る同校起業コースの2年生。法人登記の方法や業界研究など、経営のいろはを学んでいる。この日は起業コースの合宿で同校の東京・飯田橋キャンパスを訪れ、授業の一環で生徒が実際に起業した会社「ブルースプリング」の広報に使う番組制作をしていた。

そのうちの一人、大西奈葉子さん（16）は実家で営む植木の卸業を継ぐため、具体的なビジネススキルを学べる高校を探していた。商業高校や農業高校などと比較し、ワオ高校の学習内容が実践的だと感じたという。「卒業後、やってみたい事業がすでにある。授業での学びはすぐに役立ちそう」と笑顔を見せた。

明達館高校（福岡）は発達障害などで一斉授業のスタイルになじめない生徒に向けた工夫をこらす。体調によって登校日を柔軟に選択できるほか、担任教諭以外に公認心理師や臨床心理士などの相談員も常駐し、チームで生徒の困りごとに対応する。校長の

「個人にあわせた学習環境を提供することで、割近くに達する。学校数も300校を超える。一方で全日制・定時制全体の生徒は約290万人で10年連続で減少した。」

愛知学院大准教授の

さん（教育社会学）によると、コロナ禍でオンライン授業の認知度が上がってニーズも高まり、増加傾向にある不登校の生徒のほか、「自分らしさ」を大事にする最近の生徒・保護者にも幅広く受け入れられているという。「様々な理由で全日制に行けない子ども

の受け皿という側面だけに限らず、中学卒業直後の進路の一つとして選択されつつある」と分析している。

同校は2021年に開校。一般の通信制高校と同様、決められた科目の単位を修得し、3年以上学習と卒業できる。オンライン授業を受けてレポートを提出するほか、年に数回登校して対面授業（スクーリング）を受けたり、テストを受けたりする。必修科目以外に、起業や留学など自分の好きな授業を追加で選択する。北海道から沖縄まで約200人の生徒が在籍し、副校長の河本尚さんは「将来の夢が明確にあり、積極的な理由で入学する生徒も多い」と話す。

文部科学省によると、通信制高校の生徒数（速報値、5月時点）は29万人超と過去最高で、高校生全体の1